

「あ と が き」

「日々の生活におけるスカウティング」と題して 日常思っているままに筆を託に書いてもらった(提出してほしい!)旨の案内を各R.S諸君に出したのでありますが どうも「レスポンス」が悪く 編集者として 出題の出し方(又は、アプローチでございましょうか!?)を考へさせられる結果になりました。

編集者自身「スカウティングとはー?、があるかゆえにこの機関誌を通じて 各R.S諸君の考へ意見を聞きたかったのです。-----

3/7が原稿締め切りで 3/8発行という「大変遅い仕事、になり申し訳なく思っております。小生の仕事が終わらないうちで 時計が正確にセコンドを刻み こんな期日になってしまいました。同じやるゑ、すばやく正確に 若者らしく できることをやるこそガスマートであるに違いないと思ひました。なにはともあれ 協力していただいた各氏に 御礼申し上げます。

「お り づ く ..

サンパチ ローバー 機関誌 " 櫓 "

1974
昭和49年2月28日発行 "非売品"

編集者.....榎本信也

印刷者(所)....PEE'S-PRINTING-OFF

発行者 .. ボイスカウト 京都 第38団 青年隊

サンパチ ローバー



日本ボイスカウト京都第38団青年隊機関誌「櫓」

櫓
第2号

.. も く じ ..

.. は じ め に 1

★ 柿 R.S 隊長 中川 東造 2

★ 日々の生活におけるスカウティング..... 鶴田 茂一 3

★ 無 本 夕 直 樹 5

★ 日々のスカウティング 内 藤 博 之 6

★ 日々の生活におけるスカウティング..... 利 根 川 健. 7

.. あ と が き 8

★ お 願 い の 辞 ★

「若干読みずらい点もあり」小生の活字自体に問題のあることはよく分っております！読みにくいと思いますが一生懸命、書きましたので一生懸命、読んで下さい。

以 上

.. は じ め に ..

ローバースカウト オブ サンパチの機関誌”る..も no2
ということで”日々の生活におけるスカウティング”と
題し 各氏に原稿を提出していただきました。

日常生活におけるスカウティングと言っても一概に”これだ”とは
言えないと思います。又、スカウト活動を行っているからスカウ
ティングを実践しているとも言えないと思います。
特に近年は、それとは相反することの方が多いのかもしれません。

スカウティングとは、スカウト活動を通じた上に立った、各自
の日常生活を向上・発展させる大切な基 になるもの
ではないでしょうか...

そして、そこには、常に自問自答と強制がかかる行動ではなく自分
自身の”座地”がかかるような行動がその核心ではないのでしょうか.....
もちろん、そこには、他からの信頼も必要にあつてく
でしょう。信頼の根源は、もちろん自分ではなく実績、実何（お）
実績と事実の集積によって初めて信頼が発生するのであり 独善的
な論理を空転させても又空虚な権威も無力なものでしかあり
ませんね.....

結局 スカウティングとは.....!

"柿".....RS隊長 中川恵造

私の仕事場の裏庭に一本の柿の木があります。数年前より枝もしなる程に富有柿が成る様になりました。植えた時は50cmぐらいたったのに今は3m程になっています。

寒、冬が去って春になると枝々に柿の花が淡黄色く咲き小さな実が花の下に顔を見せます。若葉がやがていっ濃くなって、梅雨の頃にもなると一雨一雨毎に実も大きくなるが新角ゴルフのボール程にもなった柿がホトリ・ホトリ地面一杯に落ちます。しかし雨にも風にも暑さにも堪え抜いた十月の初めには立派な柿が見事に成って秋空に映える風景に、いっも自然の力のすばらしさに感心させられます。

私は最近 アドバイサーは勿論地区や団の役としていても制服を着る自信がぐさつてきました。自分がその内容にふさわしい人間である事が判ったからです。が先日の報恩講の夜 小川先生にこの事を打ち明けて話をしました時に"スカウティングには、いっもそういう事があります。暗石熊を乗り越えてこそスカウトであり途中で引下るのは、スカウトでは無いですよ。実は私もそんな時がありました"と教えられ今は、何とか続ける決心も出来ました。幸ローバーの皆さんも、私より大きな悩みを乗り越えて来た人達だと思います。私も器んな仲間として38団のローバー隊の一員として共に前進したいと願っています。

来年の秋には、一ききに柿を食べる様に頑張ろう!!

造でありすば抜けていても 日常生活にもとってみるとたゞしなく 更に走ったりしていったら それこそなんにもならない表面的な見せかけの人間とみなされて当然であると思う。たかだか友人同志で話し合ったり 学生生活、日常生活というものを充実して送っていくという行動がスカウティングというものにプラスになっていくてもいい。

そこで何回も述べているがこういう日常生活における行動、自分の生き方という積み重ね ねというのがスカウティングにつながり 一步一步 前進するのではないかと.....? それでそれが訓練・野営、奉仕活動、今度の15周年行事かというものにつながっていかしていきたいものだ!!

"これが今の自分における、テーマに対しての思っているままの答え方でありますか(誰しもこう思っているが行動にうつせない)こういうのは、その場のかれの解答だと思わがちでありますか今の自分は、全くこの通りなのであります。はっきり言って このテーマに対して思わねども 結論は出せないスカウティングというのをもうすぐわかっていて何であるかというのはつかめていないのであります。それで、案内書に"日々思っているまま"とあったので色々と言わせてもらいました。

おわり

"日々の生活におけるスカウティング、…… 鶴田 茂一

この言葉はスカウト活動をするために非常に重要なことであり又 B.S S.S においても大切なことであるが R.S においては時として考えなければならぬと思う。

しかし現実このことは忘れがちな…… リーダー関係などを除いた人にとっては全くといってよい程無視されていると思う。自分でも曰く何もしないで活動もしていない。

まして R.S における日々の活動・生活におけるスカウティングとは何か、何をしたいのか!? と行った疑問も懐く。

だがこれでは、何のためにスカウト活動しているのか意味がないと思う。B.S S.S などまだしも R.S というスカウト段階における最上段の立場にいるのである。だから一人一人の意見も重視される。そこでその点をかりして自分自身(!!)の考えていること、行動すること、それが日々の生活におけるスカウティングに値するべきだと思う。

"例、本部の奉仕をするのも 1 つのスカウティングであり自分にもよい経験になる。あるいは月日が迫っている 15 周年について何人で企画したり考えていることなどの提案といったことなどである。今述べたことは、スカウトに関することばかりであり誰かが考えることだと思う。もうこういっただけのことではあると思う。しかし、決してこういっただけのスカウト活動に関したことがスカウティングとは言えないと思う。それは、いかにスカウト活動面におき、優

"無"

…… 本明直樹

"無"とはすなわち"死"である

"生"あるところに"無"は存在し得ない。

しかしこの人間社会の中には、"空虚な心"すなわち"心"の中に"無"を居くというものが往々にしてある。

だがこの空虚な心の中の"無"というものはやはりその中に生命がいきづいている以上、その"偽りの無"の中に空虚すなわち無を満した欲望をもっている。それは(しか)当然なのである。"生"ある以上本来の"無"には、入れやしない。そしてその空虚になった心を一番満たしてくるものはやはり誠実なる誠意の満たされた。

"温かい心"であらう。それは、どんな欲望にきまして一番のものである。それは即ち"愛情"。

その愛情にふれたと同時に空虚な心を捨て去ることが出来る。それは偽りの無であるからである。それと同時にやはり"生"の喜びをを感じることは明かである。それが満たされなかったらどうであらう。だからそれは偽りの無ではなく、一歩本来の無に近づくことになる。即ち"偽りの無"、この"偽りの無"に陥り易い者がこのごろ"愛情"に満たされずの人が多い。

そこで"生"を感じる者は「〇」原主から見て直し"生"を味あうようになるだろうし、そうでない者は、"偽りの無"から本来の"無"と陥るのだろう……

おわり。

"日々におけるスカウティング…… 内藤 博之

昨日 大学の入試も終り 何もすることがなく たまたま遊んでいる毎日!
入試が終るまでは、勉強とまでは、余りやがなかったのですか 日々の
生活におけるスカウティングと云えば 生活 そのものがスカウティングだと
云えば 言うまい 言うでない 云えば 云えるのであると思っています。

でもスカウティングといっても 僕には、まだまだわからない。スカウティング
を見つけることこそスカウティング 人生そのものがスカウティングではな
いだろうかと思う。 その一つとして高校3年間で学んだ事を残したくて
小説を書こうとしている。勉強、人間関係などを物語的に表現している。
その内容として ホーム ルームの時間によく自分さえよければいいで
いい。クラスで何がすると言ってもみんなは黙って示さず "あいつがや
りよるし 俺がやらなくても いい"と云ったような事をよく聞いたのです。
人間と云うのは常に独りです。でも独りでは 生きてはいけぬのでは。
ないだろうか。 1人でも前述のような考えを持っているとクラス全体が
そのようになってしまうのが常でした。そこで僕がよく言った言葉に "他人
のことを考えずに生きてるのはたやすいが みんなで生きていることを
しな 人間は死人に等しい!!" これは、決して自分をなくしてしまうこと
ではなく おのれを表現することでは、ないだろうか!?

つまり 今の高校生のすべてと云ってよいから この考え方が多い
のです。 でも僕は、このようには思えない。みんな自分と云うものを
表現する事が恐い、と思っているのでは、ないだろうか!

この恐い 気持ちもなくし 勇気を出してみんなを導いて行く事

がスカウティングではなかったらうかと 高校3年間を通じ感じた
ことでもあります。

四角主義と云われている現状に勇気を出して立ち向う事こそ
僕がしなくてはならぬ。又ならなかった事!!

勇気を出して立ち向うことこそスカウティング……

すこし こじつけのようにはなりましたが 僕がこの原稿を書き
ながら 感じたこと です。

"日々の生活におけるスカウティング…… 利根川 健

このことは 余りわからない。なぜなら、僕は今でもスカウティングという
意味がわからないからである。

リーダーや同輩に聞いても 余りはっきりしていない。これを書く前に
一冊 "スカウティング"とは 何だろうかと考えてみた。と思う。

ホーム、ミニアと云ってきたわけであるが この経験によって
スカウティングということは、ボーイからボーイらしく ミニアからミニア
らしく 行動することこそスカウティングの意味でもあると思う。

そして おきてを守り 恥しくないような行動を取ることをたと思ふ。
毎日の生活には、スカウティングという意義は聞かれない。あくまでも
スカウト活動をしている時にだけ 意味していると思う。

おわり。